

令和5年度（第2回）葉山町総合計画審議会 会議録

- ◇ 開催日時 令和5年9月11日（月） 14時から16時まで
- ◇ 開催場所 葉山町役場 3階 議会協議会室2
- ◇ 出席者 臼井正樹会長、富樫俊夫委員、加藤清委員、八木麻衣委員、
近藤大輔委員、福安德晃委員、高梨麻美委員、早川隆子委員（遅れて入室）
- ◇ 欠席者 陸永充弘委員
- ◇ 事務局 山梨町長、町田政策財政部長、佐野政策課長、大屋主任、山田主任
- ◇ 傍聴者 2名
- ◇ 議題
 - 1 開会
 - 2 諮問
 - 3 議題
 - (1) 第五次葉山町総合計画の策定について
 - ・人口減少がもたらす町への影響
 - ・町民の声（アンケート・WG）から見える町に望む姿
 - (2) その他
 - 4 閉会
- ◇ 資料
 - 令和5年度（第2回）葉山町総合計画審議会 次第
 - 第五次葉山町総合計画の策定について (資料)
 - 第五次葉山町総合計画策定方針 (参考資料)
 - 令和5年度第1回葉山市総合計画審議会議事録（案）

1 開会

事務局（大屋主任）

皆様、おはようございます。本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。時間になりましたので、これより令和5年度第2回葉山町総合計画審議会を開催させていただきます。すみません、本日はマイクの数がないため、発言の際は、隣の方と共有してお使いいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。それでは、臼井会長よろしくお願いいたします。

臼井会長

おはようございます。令和5年度第2回目の葉山町総合計画審議会になります。どうぞよろしくお願いいたします。お手元の会議次第に沿って順次、進めていきたいと思っておりますので、よろしくご協力ください。本日は、議題が4つありますが、まずは事務局の方からお願いします。

事務局（大屋主任）

本日の会議の成立についてご報告させていただきます。本日の審議会ですが、出席委員は7名です。葉山町総合計画審議会規則の第5条第2項の規定によりまして過半数以上の出席があるため、本日の審議会は成立することをご報告させていただきます。傍聴につきましては、本日2名傍聴希望の方がいらっしゃいます。入室いただいてもよろしいでしょうか。

臼井会長

はい、傍聴の方の入室をお願いします。

（傍聴者2名入室）

臼井会長

それでは続きまして、今日の資料の確認をお願いします。

（事務局より配布資料の確認）

2 諮問

臼井会長

本日は、町長から本審議会へ総合計画策定に関する諮問があるということで、山梨町長にはすでにご出席いただいております。諮問書を審議会にご提出いただき、それを受けて、審議に入るかたちを取らせていただければと思います。よろしくをお願いします。

《山梨町長より臼井会長へ諮問》

臼井会長

山梨町長から第五次葉山町総合計画の策定に関しての諮問をお受けいたしました。今後、計画策定について準備していかなくてはいけないので、よろしくお願ひいたします。

3 議題

(1) 第五次葉山町総合計画の策定について

臼井会長

次に次第3の議題(1)第五次葉山町総合計画の策定についてということで、資料2がその部分に該当します。事務局から説明よろしくをお願いします。

事務局（佐野課長）

前回第1回審議会では策定方針ということで、審議会の方に今こんなことを考えているというような話をさせていただき、大変貴重なご意見をたくさんいただきました。ありがとうございました。

事務局では、あまり日を置かずに第2回を本日開催させていただきましたが、前回、策定方針を策定するにあたり、町としてどのようなことを考えているのかという説明が不十分だったと思いますので、本日の会議ではその背景でベースになっている人口推計の話と合わせて、町民の皆様からいただいたアンケート、並びにワーキンググループでいただいた意見等をもう一度整理する中で、

町民の方が第五次葉山町総合計画にどのようなことを望んでいるのかを町なりに説明させていただきます。その中で前回お示しさせていただいた策定方針に関してご意見を頂戴して、その考えを事務局として整理させていただきたくかたちで進めさせていただきたいと思っております。では、資料の説明を担当よりさせていただきます。

【1 人口減少がもたらす町への影響】

事務局（大屋主任）

それでは、資料に基づきご説明させていただきます。この資料は2部構成となっております、「1. 人口減少がもたらす町への影響」と、「2. 町民の声（アンケート・WG）から見える町に望む姿」の2つとなっております。1つずつご説明させていただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、「1. 人口減少がもたらす町への影響」ですが、先ほど、課長の方からお話しさせていただきましたが、前回の審議会におきまして策定方針案についてご審議いただきましたが、策定方針案を作成するにあたって事務局として考えていた背景などのご説明ができていませんでした。本来であればこういった背景についてもご意見いただきながら、策定方針案を審議会の皆さんと作成していくのが筋であったと思いますが、今一度、過去から現在の人口推移、そして今後の人口推計についてご説明させていただければと思います。ページの左下にページの番号があります。2ページをご覧ください。

（1）人口増減の推移です。第四次総合計画では、可能な限り人口 33,000 人を目指すというのが目標でしたが、8月1日現在の住民基本台帳ベースの人口は 32,415 人で、結果としてその目標が達成できない見込みになっていると以前お話しさせていただきました。その要因分析として、人口増減の推移についてまとめたものがこちらになります。データ自体は住民基本台帳の移動データから拾っているものですが、人口の増減につきましては主に2種類の要因がございます。それが出生と死亡による自然増減と、転入と転出による社会増減です。この円グラフは、国勢調査ベースの人口のピークであった 2010 年と第四次総合計画の始まりの年である 2015 年、そして一番右の円グラフが昨年 2022 年の3つの年の比較となっております。この円グラフの外側の青いエリアが増加、オレンジのエリアが減少で、青いエリアがグラフの半分を超えると人口が増え、オレンジが超えると人口減という見方になります。本町の 33,000 人の人口維持が結果的に難しいという理由につきましては、出生数と死亡数の差を転入数ではカバーできずに微減傾向が続いたことが理由です。2010 年と 2022 年を比較すると、自然増減は-94 人から-294 人と約 3 倍に増えている一方で、社会増減は+516 人から 57 人と、約 10 分の 1 に減っているという現状がございます。特に出生数につきましては、左の円グラフのグレーのところですが、228 人から 123 人と 100 名以上に大幅に減ってしまっていることがわかります。

3ページをご覧ください。こちらは世帯数の推移です。こちらは過去3回の国勢調査の結果をベースに作成しています。本町の世帯数及びその構成ですが、人口減少が始まっていながらも、世帯数については 2010 年の 1 万 2519 世帯から 2020 年の 1 万 2913 世帯と、約 400 世帯増えていることがわかります。この内訳を見ていくと、円グラフでいうグレーの高齢夫婦世帯ですが、2010 年に比べて 2020 年には約 1 割、黄色の高齢単身世帯は約 4 割、水色の単身世帯は約 2 割増加していること

がわかります。その一方で、一番大きな割合を占める青の65歳以下の核家族世帯は減少傾向にあることがわかります。これは少子高齢化の現状をよく表していると考えられまして、これからの葉山町においても同様な傾向が続いていくのではないかと考えられます。このような状況を踏まえますと、核家族世帯である子育て世帯、そして高齢者世帯については、従前から大きなテーマでしたが、今後も大きなテーマとして考えていく必要があるのではないかと考えています。

4ページをご覧ください。今までは過去から現在の状況をご説明させていただきましたが、ここからは現在から未来へということで人口推計についてです。こちらは2020年までの国勢調査ベースの実績値、2020年より先は平成30年に実施されました国立社会保障人口問題研究所、いわゆる社人研による推計を合わせたものです。2010年の人口をピークに減少傾向に転じていることが見とれますが、約10年後の2035年には1980年、昭和55年と同様の2万8000人台、2040年問題と言われる2040年には1970年代後半と同水準の人口にまで減少するのではないかと推計がされています。2020年比で2040年には約4000人、約13%の減少という推計結果です。

5ページをご覧ください。続いてこの人口推計を年齢区分ごとに見たものがこちらのグラフです。通常年齢区分は3つに分けますが、このグラフに関しましては、年少人口、生産年齢人口、老年人口、そして後期高齢人口の4つの区分に分けて作成をいたしました。2020年と2040年を比較すると、人口に関しましては、先ほど申し上げましたとおり4,000人減少していますが、生産年齢人口も同様に4,000人、年少人口は約900人減少しています。人口総数自体は13%の減少となりますが、生産年齢人口に関しましては約25%、年少人口は約23%の減少で、人口減少のスピードを超える速さで生産年齢人口と年少人口が減っていくと推計されています。反対に後期高齢を含む老年人口につきましては約1,100人増え、大体約10%の増加です。その結果、高齢化率は41.6%と非常に高くなっていくという推計がされています。

次の6ページをご覧ください。今まで町の人口、過去、現在、未来についてご説明させていただきましたが、人口減少がもたらす町への影響と、その影響がもたらす課題について考察をしたものが6ページのものであります。他にも考えられるとは思いますが、6つの分野について記載をさせていただいております。まず、①子育て・教育では、児童生徒数が減少すると施設規模の余剰が出ます。そうすると、そもそも今、町では小中一貫校の検討自体を進めています。施設規模での学校の統合、そしてかねてから教職員のなり手不足が叫ばれていますが、さらなるなり手不足となることで教育の質の低下が課題となるのではないかと考えています。②福祉分野につきましては、先ほども高齢者世帯が増えていくだろうとお話しさせていただきましたが、高齢単身世帯が増えらるとつながりの希薄化が生まれ、高齢者の孤立が増えていくと考えられます。それに加えて、生産年齢人口が減ると介護職等の高齢者の支援を担う人材が不足し、介護サービス等の低下が課題となると考えられます。③地域生活につきましては、単身世帯の増加や地域とのつながりの希薄化によって、町内会等の担い手不足、社会からの孤立、地域の防犯力、防災力の低下などが考えられます。④産業につきましては、消費が少なくなることによる市場の縮小、生産年齢人口の減少によって後継者不足が起き、地場産業の衰退などが考えられます。⑤環境につきましては、現在においても進行していますが、山林の荒廃や耕作放棄地の増加が担い手不足によってさらに進行し、海と山が一体となったこの葉山町特有の生態系の悪化、空き家が増えることによって、地域生活にもリンクすると考えられますが、衛生面等の生活環境の悪化が考えられます。最後の⑥行財政、我々役場の領域ですけれども、税収

の減少、社会保障費の増加によって財源不足や職員の減少も考えられ、その結果、今までと同水準での行政サービスが維持できずに低下する。施設の老朽化によるインフラの維持が難しくなってくる。こういったことが考えられるのではないかと思います。

我々が策定方針案を作成するにあたりましては、こういった人口減少についての背景がありました。本来であればこういったものを皆様と共有させていただき、それを踏まえながら策定方針についてご意見・ご提案をいただくべきでしたが、前回ご指摘いただいたようにそれができておらず、大変申し訳ありませんでした。ただ、2010年から始まった人口減少の局面におきまして、この町の最上位計画である総合計画におきましては、今まで通りの考え方でいいのか、今がターニングポイントではないのか、といった思いがありました。策定方針につきましてはカチッと定めず議論をしていく中で固めていけばいいと前回ご提案いただいておりますが、参考資料としてお渡ししております策定方針案について、また改めて何かご意見等があれば、いただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。人口減少がもたらす町への影響についての説明は以上となります。

臼井会長

ご説明ありがとうございました。お手元の資料で、「1. 人口減少がもたらす町への影響」、6ページまでについてご説明いただきました。だいぶ長く葉山町に関わっておりますが、こういうかたちで町の状況を審議会にかけるのは、私の経験では初めてだと思います。多くの自治体が人口の問題に直面をしていて、さらにその影響もあるのですけれども、部分的には、例えば労働力人口の確保の意味から、外国人に対してもう少し門戸を開かなければいけないのではないのかという議論も強く出始めています。私は、夏休みを1日だけ休みが取れて、箱根の温泉に行きました。その旅館に行って、最後、帰りの日にチェックアウトする時に対応してくれた宿の方が雰囲気でも国籍をなんとなく見るのは良くないのですが、インドあるいは中東辺りの出身の方かなと思われる方が流暢な日本語でチェックアウトの対応をしてくださいました。インバウンドの対応ができないということなのか、それとも労働力がそもそも足りないのか、どちらなのか分かりませんが、外国人の方を雇用していました。同じようなことは3年位前に箱根に行った時も同じで、この時は東アジアの方と思われる方が中国系の宿泊客の対応も含めてしていました。だから、旅館業やサービス業では、外国の方を入れざるを得ない状況があるというのは、人口の減少の話に絡むのだけど、実はそれだけじゃないのではないのかという心配があります。それも含めて、少し状況認識をみんなで確認していた方が良いのかということをご説明いただいて改めて感じたことです。皆さんの方から感想でも結構ですし、聞き方でも結構ですし、そう言ってもここは、希望を持った方がいいとかっていうのがもしあれば、どこからでも結構ですので、遠慮なく発言をいただければと思います。

福安委員

人口減少がもたらす町への影響、課題というのは、これはこのとおりだなとは思いますが、前提となるこの数字の見方は、実はもっとポジティブで良いのかと思いました。葉山町は、世の中の的に人口減少が進んでいる中で、わりかし頑張っている町だと思いました。重要となるのは生産年齢がどれくらいかという部分ですが、数字をちゃんと見ると、例えば3ページ、2010年と2020年を比較すると確かに減少ですが、2015年と比較すると増えています。また、生産年齢は増えてはいなくて

も比較的大丈夫で、生産年齢より上の年代が随分減っている印象をこの数字から見て私は感じました。最終的に5ページで、年齢区分の推計がありますが、これは2020年からで、2015年と2010年は出ていません。ですから、2020年から推計しているだけで、実はひょっとしたら葉山町は、もう少しよいのかもしれない。もう少しポジティブに捉えてよいのかと数字的には感じました。ただ、結果として、影響課題がどの様になっていくかという、このとおりのだろうと感じます。

高梨委員

大変わかりやすい説明ありがとうございました。先ほどの臼井会長のお話を伺いながら質問というかお分かりになればですが、人口増減の推移のところで転入が人口増の大きな要因になっているのかと、これからも期待するところかと思うのですが、転入元というか国内の人が増えているという理解で良いのでしょうか。先ほどの話の中にもありましたが、海外からの居住を考えられる方がいることも考えられるのか、人口増があり得るのか、などを今後見込んでいるかどうか教えていただけたら嬉しいです。というのは、国内の人口減は全国的な風潮として皆が分かっているところではありますが、一方で海外では非常に人口が増えている国もあり、また、経済的にも非常に国力が上がっているところから日本にきたいということがあるのかということも含めて、労働力もちろんですが、例えば葉山に第二の家を持ちたいなど、その様なことも検討することがあるのかというのがまずお伺いしたいなと思って手を挙げました。

事務局（佐野課長）

質問ありがとうございます。令和元年度に私が政策課に来た時、外国人の方にアンケート調査をして、その数が220～230件だったと記憶しております。今回のこちらの人口推計の中に、これは社会保障人口問題研究所のもので、どこまでが外国人でどこまでが日本人かというのは、すぐ数字が出なくて申し訳ないのですが、外国人を含めての推計です。おそらく今年度末ぐらいには令和5年度推計という、令和2年度の国勢調査をベースに社人研で人口推計の結果が出ます。日本全体の推計結果は既に出ているのですが、平成30年度推計よりは若干の上振れでそこまで減らないのではないかと、そしてその要因が外国人の流入によるものだという話は聞いております。そのうち、葉山町という町単位で見たときに、先ほど言った令和元年度のアンケートで230人位ということは、人口が3万2千人だとすると1%弱ですので、臼井会長からもお話のあった宿泊施設などが少なく、労働の場所も少ないので、それほど葉山町は上振れしていないのではないかと思います。ですが、その辺りも今度の令和5年推計が出た段階で十分確認していきたいと思います。ご意見ありがとうございます。

高梨委員

今の質問は、例えば、日本人と同じように葉山に住んでいて、他都市で働くということも含めて検討される方がいらっしゃるのかと思って伺いました。2つ目の話は6ページの(5)人口減少がもたらす町への影響、課題の1つ目のところで、「児童生徒の数の減少、学校施設の余剰、学校の統合」となっていますが、統合自体は課題ではないのではないかなというところがあって、例えば発展的な統合の仕方もありますよね。特に年齢集団と一緒に活動することの良さを見越しての小中一

貫というかたちもあると思いますので、むしろ、統合することによってどんな課題が起きるのかを考えた時には、通学が大変になるという点が考えられ、交通機関の脆弱性など、そういうところがむしろ課題なのではないかと考えました。そして、施設が余剰ということは、余剰なので課題という、課題と問題が混同しているのではないかと。ただ、それが他のものに転用できると考えたら決して課題ではないのではないかとということもあります。そういうことを自分がターゲットとして見てしまうこともあり気になりました。

臼井会長

ありがとうございます。これは、よく出来ている資料で「課題」と書いてあります。「課題」と「問題」という言葉は、私が論文を書く時にすごく意識的に使い分けています。「問題」というのは解かなくてはいけなくて何とかしなきゃいけない。「課題」というのは、状況が変わって変化していることで、何か必要かどうかを皆で検討して、必要だったらできることをしましょうという話で、課題は問題として解かなくてはいけないということではないと考えた方が良いでしょう。英語でいうと、“problem”と“issue”です。issueは課題と訳しますが、issueは、起きている状況で前に比べて変化しているから何かそれを受けて社会的に対応する必要があるかもしれない。でもそれは、問題として掲げて対応するのではなく、変化に対応する位の話で考えるという意味では、ここで「課題」と使ったのはものすごく偉いと思います。「課題」と書いた趣旨は、つまり、状況によって子どもが減って統合するというのは、変化が起きる。変化が起きるから当然だけでも学校に通うのに時間がかかるお子さんがいる。だけど、同じ学校で子どもの数が減ってしまうと何が起きるかということ、子ども間で交流する対象が減るから、子どもが成長するプロセスの中で他者との関係性や社会性を身につける上で、あまり減り過ぎてしまうと逆に発達が阻害されてしまうみたいな、今までみたいな育ち方をしなくなるということが考えられる。だから、その折り合いの中でどの位のところで調整したらよいのかがその次のステップになります。それは「問題」というより「課題」だと思います。issueと考えた方が良いでしょう。

高梨委員

ありがとうございます。臼井会長の話を伺っていても、やはりこの文章の中で赤字で書いてあるのがむしろ「問題」に見え、黒字の方が「課題」なのではというところで、そのように考えた時に①の一つ目のところだけが他と合っていないように感じたのですが、いかがでしょうか。

臼井会長

赤と黒で分けなくても良いということではないでしょうか。

事務局（佐野課長）

すみません。確かにもたらす影響と、そこから派生する、さらにまた掘り下げればどこが問題なのかというのは、おそらく次々となっていくと思うので、今のご意見を受けてこれを記述する時には十分に整理して進めさせていただきます。ありがとうございます。

白井会長

補足ばかりですみません。2つ目の②福祉のところ、高齢者の孤立が書いてありますが、高齢者の孤立は一人暮らし、或いは高齢の夫婦世帯で生活している人の孤立よりも、家族と一緒に生活している配偶者が欠けた高齢者の方が、実は孤独感が強いと言われていました。つまり、家族にうまく溶け込めない状況ができてしまう。うまく家族と交流できている人は、孤独感は少ないけれども、家族の中の状況、関係性が悪いと逆に一人残った高齢者の孤独感はかなり強くなる。それは一人暮らしの人よりもはるかに強いと言われていたので、高齢者の孤立をどう考えるかは難しい話だと思います。

もう1つ他のところでやっている技能実習という制度で、日本は今現在、外国人を建設現場や介護現場も含めたくさん受け入れています。介護だけで数万人もの人が技能実習という制度で日本へ来て仕事をしてくださっていますが、その制度自体が見直しを進めていて、10月中旬位に出入国管理の法務の立場の結論を出す話になっていて、それを横睨みしながら厚労省サイドで介護の場面、つまり福祉の場面で、特に技能実習で来ていた外国人の方々の働き方をどうするかということの検討に入っています。ここで面白いのは、外国人に門戸を開けざるを得ないのではなく、積極的に外国人に門戸を開かなくては駄目というのが法務省サイドの判断です。それは、つまり使いやすい労働力として使うのではなくて、きちんとした位置づけをして、日本人の労働力と同等の位置づけをしながら外国の人に働いてもらえる環境を作る方向で、法務省サイドは検討していて、それを受けて厚労省が全部処理できるかどうかわかりませんが、その様な状況にあります。例えば、介護サービス等のサービスの供給能力の低下は起きています。それについて、法務省と厚労省と両方合わせてちょうど議論をしている最中だということは、知っててください。

近藤委員

分かりやすい説明ありがとうございました。いろいろ委員からの話がありましたが、人口減少という、とりわけネガティブに捉えなくて良いのではと思っていて、ただし今やっている行政運営の在り方では行き詰まるでしょうし、住民の生活も変わるので、そこをどうしていくのか我々が意見を付すところだと認識をしています。

とりわけ思うのが県議という立場もあり、県内だけで見て葉山の人口の減少率は少なく、県内33市町村、横浜や川崎は区で細かく分けても増えているのは3エリア位しかないです。よって、葉山は比較優位であって、特に今回、世代の分析もできています。その辺、少し外国人労働力も含めてトレンドの様なものを分析することが必要だと思っています。中でも素晴らしいと思うのが、社会増が未だに続いています。2010年に比べると10分の1ぐらいになっていますが、社会増が増えていることは特筆すべきだと思っています。また、今後の審議の中で、今後の葉山町の行政運営をどうしていくかは、今までにないやり方、近隣の市町と協力し合うことや、外国人労働力もそうなのですが、新たな視座、視点を総合計画に入れていかなくてはいけないという思いを新たにされた次第です。意見です。

白井会長

ありがとうございます。おっしゃるとおりで、今までやっていたものの延長で考えるのではなく

て、今までやっていたことで枠がはまってしまっている場合、その枠が本当に必要なのかともう1回考えながら先を見つめるということが大事なのだと思います。近藤委員の話はその様な趣旨の発言だと思います。それから、人口の状況はトータルで見ればそんなに悲観する状況ではないというのが前提で、これも良いと思います。減る話を聞くと、皆、困ったという話になりますが、日本の中でどこの県とは言いませんが、そもそも県レベルで自治体が成り立たないのでは、しかも2040年位になったら、2つの県をまとめなくてはいけないのではという話になりかねない。そういった話から考えれば圧倒的に有利な状況にあるので、そのことを受けて悲観しないで、でも状況に合わせて必要なものを変えていくのが近藤委員の趣旨だと思います。おっしゃるとおりだと思います。

加藤委員

この4ページの人口推計を見ていますと、第二次ベビーブームがありました。私は第一次ベビーブームの最後の年ですが、そして、第二次ベビーブームというのはその子どもということで、第二次世界大戦がありまして、世界人口は増えていますが、第二次ベビーブームから先進国の人口は殆どほとんど減っています。それで先ほど臼井会長が言われた外国人の門戸ということで、差別用語になってはいけませんが、先進国というか先ほど言った東南アジアの方の門戸を、私はもっとこの様な小さな町でも開かなくてはいけないと感じており、人口減をなるべく微減にして活力を入れなくてはいけないと思っています。私はそう考えていますが、町としてはいかがでしょうか。

事務局（町田部長）

逆にご質問になってしまって恐縮ですが、外国人労働力の流入を目指すとなるとその前提として葉山町の法人も含めて、働く場が非常に少ない中で、大きな舵取り、方向性として産業の創出に積極的に臨んでいくべきかが議論になってくると思いますが、これから総合計画を作るにあたり、逆に委員さんにどういったお考えがあるのかというのは私も事務局としては非常に気になることです。後ほど事務局から説明があると思いますが、住みやすいまち、住み続けたいまちというところ、要は居住の町としての葉山なのか、もう少し働く場所として軸足に少し重みを置いていくのかという、その辺の考え方があれば、逆にお伺いしたいところですが、いかがでしょうか。

臼井会長

代わりに私の方からコメントすると、今の話は、町の様子を見ていて労働力が逼迫している分野が町の中にどうあるのかという話ですね。よく現場の人から聞いている話は、高齢者の施設や訪問介護のようなどころでは、事業所が人の確保ができないということは殆ど全てのところから聞いています。葉山町でいうと、高齢者の施設は特別養護老人ホーム、介護老人福祉施設が2ヶ所ありました。それから、老人保健施設もあります。介護系の専門職というのはそういうところで働いていらっしゃるの、そこでの専門職の状況というのは多分福祉課さん経由で一言声をかければすぐ分かるので、ポイントを絞って少し当たってもよいのかもしれない。ただ、少ないということについて、町が確認してしまうと町が何とかしてくれるかと思ってしまう人は世の中には多いので、そのやり方は少し工夫した方がよいかもしれません。もしかしたら、町社協ルートでやるなど、直接町が出ない方がよいかもしれません。でも、聞けばすぐわかる話で、私が聞いている話で言うと、

飲食業も同じ話であちこちの飲食店で人が足りないという話をすごく聞いているので、町の中の商店等の関係のところからいくらでも情報が取れるし、あるいは銀行さんにもその類の話は情報として入りやすいはずなので、少し組織的に何箇所か状況を当たっても良いかと思えます。町から出て行って横浜のどこかで勤めている方など、人材の供給バランスみたいな話は、あまり考えなくてもよいかもしれませんが、地元で必要としている労働力は、地元でサーチすることが可能だと思うし、それはそんなに難しい話ではないので、町の外の一定の労働力と町の中にいてもらわないと町として困ってしまうような労働力と二つに分けて、町の中で必要な労働力に関しては少しサーチしてもよいような気がします。

高梨委員

今の話の中で2つのどちらかという、町に住んでくださっていて労働力の場がという話がありましたが、オンライン上で仕事ができる人達もだいぶ増えているということイメージして、そのような方に葉山の良さを売っていくというところも一つあると思っていて、いざとなれば東京や羽田へのアクセスが非常にいいということも売りになると考えました。

近藤委員

話は盛り上がっているのに冷ましてしまうかもしれませんが、労働人口の減少って県政でも非常に問題になっていて、検討されているのですが、行政運営するにしても職員がなかなか募集できないという状況があります。町を運営する上でも、外国人労働力をどういうふうに捉えていくのかもそろそろ本格的に検討しなければいけないという意味では、これだけ労働人口の減少の話があったので、町役場から範を見せられたらよいと、意見として申し上げておきます。

臼井会長

ありがとうございます。県庁に勤めている知り合いがまだ何人かいるのですが、職員採用に応募してくれている数が相当の厳しさで減っているようです。なおかつ、さらに採用できても早めに辞めてしまう。私などは結果的には40年位県の職員をやったのですが、そんなに長くやる人はいなくて、若いうちに辞めてしまう。国も同じです。国家公務員の受験者数が減っていて、しかも30歳前に辞めてしまう人がかなり増えていて、次の世代を担う中核になる職員を育成すること自体、県庁の中の能力も落ちているし、育てる対象の人の確保も難しくなっているというのはすごく感じます。

また、今は雇用形態が多様化しているので、例えば、初めは5年から6年位の期間付きの職員採用でトライするという様な話も十分世の中の的にはOKなので、いろんな工夫をしていただく方法があるかと思えます。

富樫委員

少し違う視点で教えていただきたいことと、私の思っていることを少しお話させていただくと、人口推計の社会増、先ほど近藤委員もおっしゃったとおり、社会増があるのは大きいことだと思います。ただ、その社会増の年齢構成がどうなっているかということも大事なことだと思います。例えば、世帯形成期や生産年齢になる方が増えているということであると、今後の出生率も変わって

くと思います。そのあたりから見ていくと、これからの町の動きも若干変わってくると思いますが、そこにあたり、今、その転入者の割合の年齢層はどのような形になっているのでしょうか。

事務局（佐野課長）

今のご質問ですが、葉山町の特色として、5歳から14歳の人口は少なくともこの25年間ずっと増加します。そこを今の年齢でいうと、就学前から義務教育期なので、そこはずっと増え続けています。それとともに35歳から45歳の人口も増え続けます。そこが社会増の主たる要因です。ということは、結局、子育て世帯の方、富樫委員は、校長先生でいらっしゃるんで、出生が200人なのに小学校1年生になるころには300人になるというのが葉山町のこれまででした。そこが主たる増要因だったのですが、今後どうしても団塊の世代の方がこの2025年に後期高齢に入るので、65歳以降は、必ず5年経つとその前の世代が減ります。これは、明らかに流入より死亡が多いからだと思います。その点、75歳以上の団塊の世代の方が今度お亡くなりになる方が増えてきた時にそれを埋めていく流入の方がいるか、というのが一つ大きな不安に思っている要素です。もう一つ言うと、15歳から29歳までは、25年間ずっと減り続けています。それは高等教育機関がないことと、それから就職する時に、大学に通うために外に出てそのままそちらで就職してしまい、一人の時はなかなか帰ってこない。また、お子さんが生まれる時は町外に住んでしまう。あとは、その方が葉山に戻ってきてくれているかどうかというデータは持っていません。その様な意味では、中には30代になって、葉山町の戸建率は県下ナンバーワンで共同住宅が極めて少なく、土地が高いこともあり、なかなか一戸建てを買うには少し財政的に家計が難しい部分があるのかというのが、そこが葉山町の人口の流入、流出のポイントの大きなところだと思います。

富樫委員

ありがとうございました。先ほど話いただいたように、校長時代に子どもの数は、実はクラス数は増えているような時もありました。今、微減位になっていますが、そんなに悪い状況ではないと思っていました。ただ、これが将来的なところを見据えながら考えなくてはいけないというご説明が非常によく分かったところです。もう1つ、先ほど人口減少がもたらす町への課題のところでも子育て・教育がありました。学校というのは、地域の象徴であるということも1点あります。確かに非常にクラス数が減って単級である地域もありますが、そこは地域がひとつになってということもありますから、純粹に子どもの減少だけではなく、その地域の中でどの様な位置づけを持っているかということも合わせて、学校を考えていかなければいけない。それと同時に、やはり小中一貫教育を目指していますから、今の校舎自体が相当老朽化していますので、そのような意味では、今、現段階で校舎の建て替え等が難しいと、十分承知をしておりますが、そこをうまく統合とセットで形にする方法がないのかと同時に、地域の活性化も含めながら考えるという視点も取り入れていただけるとありがたいと思いました。ありがとうございました。

山梨町長

皆さん、今日は貴重なお話しを本当にありがとうございました。私、11時から次が入っているので出なければいけないので、本当はもっとこの議論を聞いていたいところなのですが申し訳ありま

せん。一言だけ申し上げたいと思います。今回、皆様からの質問にあたりましては、優秀な職員の皆さんが私の代弁をずっとしてくれていますので、何も言うことはないということが正直な声であります。そこで、私から少し大きな話と中規模の話に分けてお話ししたいと思います。

まず、葉山町に関する大きな視点で、私たちが決してあってはならない視点について申し上げますと、先日 100 周年に向けたキャッチフレーズが発表されました。その中のほとんど全てが自然に絡んだメッセージが込められておりまして、実際に決まったメッセージも「100 年後も、自然と人を想う町、葉山」という中学生のお子さんのメッセージに決まりました。議会も含めて私達行政も皆さんも、人と自然を思い合うということが葉山の絶対的な条件だと思っております、これは、皆さんがおっしゃっているように多面的な別の視点から考えてみますと、例えば治安の劇的な悪化であったり、自然環境の崩壊であったり、それから結果的に住む人たちの安らぎ、癒しがなくなるといふこと。町として廃墟化することは決してあってはならないという前提が一番大きな葉山のスタンスだと思いますので、そうならないことは、是非、皆さんにお考えいただきたいポイントになります。

次の中ポイントですが、これは、皆さんお話しいただいたような人口の動向、また、災害が大きく影響すると思いますが、神奈川県も今、総合計画策定に向けて動いている中で、先日、県政として初めて「先の見えない時代」という言葉を 3 大項目の 1 つに挙げるそうです。我々もそれは非常に強く感じているところで、自然環境、それによる災害の激甚化、または、それによる私達人間の社会構造の変化というものが非常に見えなくなっているものに対しては、これから我々行政がどうそれを支えていくかというのは、憲法に書いてあるとおり、私達人間社会の一番大きなミッションだと思っておりますので、決して逃げてはならない場面に私達は向かっていくというふうに考えております。ですから、第五次に関しましては、どんな見立てがあったとしても、我々行政にとっては非常に厳しい先の見えないところをどう紐解くかという柔軟性ととも、しっかり見通せる専門性、まさに信託を受けている仕事をしっかり果たさなくてはいけない総合計画だと思っておりますので、我々は非常に厳しく考えているところが原点になります。その上で、私達が恐れているところ、そこに見えないものが、よく北極海の氷が溶けていくのは平均的に毎年何リットル溶けるのではなく、一回溶け始めると加速度的に溶けていって、加速度的に水量が増えていくという話がありますが、私達人間社会も同じように環境が変わりますと、社会心理は劇的に変化をします。トレンドで平均値いくつではなく劇的に変化をするということが、我々の先の見えないものが一番恐れるプロセスになります。決して動揺を招いてはいけませんし、しかし、この、癒やしと安定のある葉山町を守るためには、我々行政がそこに何とかして支えに入らなければいけないと考えるとその負担はとても大きいと思っております。ここに向けるというのは非常に難しいのですが、先ほどの皆さんがご議論いただいているとおり、それを皆さんもお分かりいただいた上で、1 つひとつの具体を紐解いてくださっていらっしゃいます。学校のことに関して、決して学校が統合することは悪いことではないのかと考えてくださるのはとてもありがたいことです。ただ、私達行政からすると、建物を作り直さなくてはいけないとか、近隣住民にご理解をいただければいけないというところで、変化に対する私達行政としての仕事ではとても大きくなりますので、是非、そこに向けて「総合計画でこうあるべき」と発信していただいて、多くの住民の方にも苦しさを理解してもらえるような計画にしてもらえると大変ありがたいなと思っておりますし、そこに私達の仕事としては引くことは

ないと思っていますので、覚悟を持って進めてまいりたいと考えております。長くなりましたが、本当に難しい局面のことを是非ご理解いただいて、私も議会の皆さんもご理解いただけるところがたくさんあると思いますから、諮問に対して、皆さんから厳しい方向性と厳しい「立ち向かえ」という励ましをいただけたら、大変ありがたいと思っています。よろしくお願いいたします。

臼井会長

ありがとうございました。今の山梨町長の発言は、心して対応したいと思いますが、逆に位置付けとしては、すごく厳しいことを書かなくてはいけない場面がいくつか出てしまう。ただ、こうしろという部分で厳しいというよりは、そこへ向けた取組が厳しいという中身になる。どちらかという町職員の皆さんには、精神的にかなりストレスになるかもしれません。ですが、それを書かないと、実は町の職員の方だけではなく、総合計画というのは、ずっと言っておりますが、町民の方へも発信しているものなので、その方向性で町民の方と町役場が一緒になって先に向けて課題をクリアしていくための努力をするようなきっかけになるものを書き込んで構わない、というお発言かと思っていますので意識したいと思います。ありがとうございました。

山梨町長

1点だけ、細かい話なのですが、先ほど佐野課長が申し上げた人口の動向の話ですが、確かにトレンドは、子どもが安定的に、生産年齢が安定的にというトレンドになってはいますが、直近のコロナの3年間を見ますと、後段2年間は、50代・60代の方の移住定住が増えており、子どもの数は減少に向かっています。私が先ほど申し上げた読めない変化が、仮にこれからのトレンドになってしましますと、佐野課長が申し上げたかつての予測が大きくずれ込むこととなりますので、そこは1つ私達が心配をしているところで、そしてすごく端的な目線ではありますが、その様な動向がこの2年間にありましたので、ご報告いたします。では、よろしくお願いいたします。失礼いたします。

(山梨町長 退室)

臼井会長

たくさん意見が出てきましたけれども、もうあと10～15分位は意見を出していただけるかと思しますので、まだ発言していない人を中心に何かあればお願いします。

福安委員

少し先ほどの話を蒸し返す様であれば申し訳ないのですが、生産年齢をどう考えるかという点なのですが、生産年齢だとか生産人口だとか、あと実際に求人というか、人手が足りないという前提でいるのかと感じるのですが、私はテクノロジー業界で働いているので、実は少し何となく違った考え方を持っています。ひょっとしたら将来的には人手は余ってしまうのではと考えています。この5年、10年ではなく、もっと先に行くと実は余るのではないかと考えています。最近ファミレスとかに行くと猫のロボットが運んでいます。今は少し鬱陶しく、フリードリンクを取りに行こうとすると邪魔ですが、あれが効率的かという点、今は効率的ではないですが、また、ニトリなど大きなショッピングセンターに行くと、今はピッと自分でやるセルフレジになっています。今は少し効率

が悪いですが、でも5年10年するともものすごく効率よくなります。そうすると実際、人手が今は足りないかもしれませんが、実はそうではなくなるという気がすごくしています。この間、外食チェーンの役員の方に聞いたのですが、私達の業界はお客様がいても倒産する。ホテルや外食チェーンや小売はお客様がいても倒産する。何故かという、働く人が来ないから。だから今、いわゆるロボットとかに投資していると言っていました。その投資の結果が出てくるのは、5年後か10年後かもしれませんが、それが本当に人をリプレースできる日が必ず来ると思います。そうした時に本当に人手がいるのかと私は思っています。だから、先ほど外国人を受け入れなければいけない云々というのは、ひょっとしたら、その分析があつてからなのではと思いました。

臼井会長

ありがとうございます。一律で今の状況で考えるとこうなる。だけど、先に受けて、例えば、10年のスパンで考えた時に、産業の構造が変化するところをどこまで見込んでどうするかは割と飛んでしまいがちなので、そこも意識はしないといけないというご発言かと思えます。あといかがでしょう。

早川委員

遅れてきて申し訳ございませんでした。私もこの資料を事前にいただいた時から拝見して、皆さんと同じように人口減少はもう避けては通れないので、逆に人口が減少しても何とかなるさ的な解決方法というか、そういうのを考えていかないといけないのでは、と漠然とこの資料を見た時にそう思ったのが1点。それと福安委員もおっしゃっていましたが、私もいろんな経営者の方とお話ししていて感じるのは、ロボットの使用は避けては通れないところがあるので、介護サービスなどでもロボットが出てくるのは多分当たり前になってくるので、人材が不足するのかというのは、私も少し疑問に思っているところではあります。あと、人口減少の件とか誰が住んでくるかという問題もどのように話してよいかわからないのですが、20代、30代の方とお話ししていると、もはや結婚相手は日本人だけではなく、ネット上でも知り合うと。この間非常にびっくりしたのは、20代の方が北欧の方とインターネットで知り合って日本に住みたいと言われ、その方もIT系のお仕事をされている方なので、日本に住むのにどこがいいかとネット上で相談されているという話がありました。だから葉山もそのような意味で「国際的にすごいいい町だよ」と、例えば、イタリアにある町みたいなブランド化ができるのであれば、非常に住みやすい町になってくるだろうし、仕事に関して、どんな仕事の人でも入りやすくなるのではと思います。あと、転職が当たり前になってきているので、人材を留めておくという発想自体が古いのかもしれないというのも少しあります。でもコアとなる仕事はやはり一人の人となるのかもしれませんが、その辺は私もわからないのですが、20代、30代の方達は次々と仕事を変えていくことが当たり前になってきているような気がしますので、その辺も視野に入れて、町として行政が滞りなくいく方法を考えなくてはいけないと思いました。

臼井会長

ありがとうございます。ますます難しくなりました。でも大事な話で、問題と捉えてしまうと答えは簡単に見つからないような感じです。ありがとうございます。あとはいかがでしょうか。

八木委員

皆さまと意見が一緒で人口の減少はもう避けられないというところはあると思うのですが、また話を蒸し返すようで申し訳ないのですが、外国人の労働者のところで、そもそも外国人で働いている方を見かけないと思っています。どの位の人数が実際働かれているのかが気になります。ただ、先ほど葉山は移住するところなのか働く場所なのか、あと産業の創出というお話がありましたので、先ほど早川委員もおっしゃっていましたが、葉山に移住してもらうために呼び込む魅力的な総合計画を作っていた方が良くと思いました。以上です。

富樫委員

私が先ほどお話ししたことで誤解があるといけないのですが、生産年齢だけが重要なのではなく葉山町で高齢の方も増えているということを見ると、全年齢で満足できる町にしていかななくてはいけないというのがあると思うので、そこの上の部分も重要に考える必要も当然あると付け加えさせてください。以上です、

臼井会長

ありがとうございました。外国人で住民登録されている方の数はわかりますか。

事務局（山田主任）

外国人の方が住民票に登録されるようになったのが、大体今から10年前位です。なので、そこが一気に人口が増えているところなのですが、そこから割合として葉山町全体では大きく変わってはいないものの、若干増えている傾向があります。私は元々戸籍の担当だったので、最初が200人位だったものが、先ほどの町長の話では1%位ということだったので、300人くらいまでは増えているかと思います。さらに今、働いている方は見られないというとなのですが、葉山町の特徴としては、永住者の方が特に多いです。ですので、どこかしらで働いていらっしゃると思うのですが、それがテレワークなのか、在宅で勤務できる方も多いと思いますが、その詳細までは掴めておりません。大体人口の割合としては1%で300人前後だと考えていただければと思います。

高梨委員

今、お話を伺いながら思ったのですが、葉山の中で働いてくださると葉山に住む人というのは、必ずしも一致しないのではないかと。特に外国籍の方の所得を考えた場合に、実際の勤務形態というのが、例えば先ほどお話にあった福祉の現場で働く場合に、その方が葉山に住まれるかという、そうではない可能性もあります。そういった時に、町としてそのような労働者の方に来てほしいという思いなのか、住んでほしいのか、その辺りは少し整理した方が良くという気がしました。労働力の確保と、住居として葉山に住んでほしいのかというところは少し話が違ってくるのかと思いました。

早川委員

質問なのですが、外国籍と言っても純粹に外国の方がいらっしゃるのか、私の身の回りの方は、お子さんを海外で産んで来て、日本に来て、葉山で成人した時に国籍を選ぶみたいなことをやっていらっしゃる方もいます。多分、そんなところまでは把握していないと思いますが、それとそれとではまた少し違うのかと思いました。

事務局（山田主任）

細かい話になってしまうので概略になりますが、まず、住民票に載っている外国人の方というのは、日本国籍を一切持っていないという外国人の方、かつ、軍属ではない方、つまり米軍基地で働いていない方です。今、ざっと調べたらやはり 300 人位いらっしゃり、今おっしゃった二重国籍の方については、日本の国籍も持っているので、基本的には日本人としてのカウントになります。ただ、中にはもしかしたら本人が自覚していない方もいるかもしれないのでなんとも言えないのですが、純粹な外国人として 300 人。ただ、これも法律がいろいろあり、「特別永住者」という方がいて、外国籍ではありますが、日本人と同様な生まれも育ちも日本だけど外国籍、という方もいらっしゃるのですが、なんともここでは申し上げられないのですが、外国籍しか持っていない人が約 300 人として認識いただければと思います。

高梨委員

今のお話の中で、外国籍の方が仮に増えるとしたらというところで、教育の課題の中で、母語を日本語としない方が多く居住されるという場合も、一つの課題としてはコミュニケーションのところに新しく出てくると思い、付け足してお話申し上げました。

臼井会長

頭のどこかに置いておいた方が良いでしょうね。

高梨委員

教育に限らず、いろいろなサービスの面でそれが重要になってくるかと思います。

臼井会長

今の話を総合すると、町の中の構造が変化して何かきっかけになるようなことがなければ、微増状態で増えていくでしょうけれども、例えば葉山町の中、あるいは葉山町に近いところに何か大きなものができたりすると増加に変わることがある。例えば、大学ができて留学生がたくさん来るようなことが起きれば様子は変わることになります。だから環境の変化で変わることはあり得るという中で、今の状態だと、時間をかけて増えていく傾向だということはどうも間違いなさそうです。ありがとうございました。

高梨委員

先ほど先が見えないという話もありましたが、インターネット上で口コミがという話もありまし

た。ある時に口コミで広がってそこからバツと動くというのも最近のトレンドだと思いますので、それもあり得ると思います。

早川委員

何で火がつくのか分らないです。

臼井会長

葉山に住みたいと思ったけど、なかなか住む所が見つからないというので諦めるのと、本当に住まなくてはいけない状況があって何とかしてよと町役場に相談に来るかもしれないけれども、ネット上で見て、あそこ良さそうだから住みたいと思って探したけど、住む場所がない人は、とりあえず大急ぎで、何か対応しなくても良い話かもしれない。どう考えるか、少し難しいところです。

高梨委員

そういう人を逃したくないと捉えていくのか、ということも一つあるのではと思います。

臼井会長

始まる前に佐野課長と話をしたのですが、全国で市町村別の住民の所得ランキングで、トップは東京の特別区の何処かだったのですが、2番目がどこだと思いますか。見てびっくりしました。葉山ではなくて、山口県の周防大島という島なのです。周防大島というと昔は本当に産業がなくて、今は橋がかかっていますが、何年か前に事故で橋と一緒に給水ができなくなって大騒ぎになった島です。民俗学者の宮本常一氏が出身の島で、主産業はみかんだそうですが、すごい資産家で収入もある人が「いい島らしい」と何人かまとめて住んで住民票を動かしたようです。そうしたら、全国で2番になってしまいました。元々、明治から大正、昭和の初め位までは、ブラジル等の南米へ移住の人達をたくさん出していた島で、逆に移住で成功した人達が島に仕送りをするようなまちだったのが、いきなり何か変動があることもあるということです。葉山は富裕層の数が違うから、いきなり減ることはないのだろうけど、周防大島のように誰かが来て平均所得が増えることも、世の中では本当に起きるのですね。でも、逆にその人達のために住民税で特にすぐ使う必要があるかという、多分ないですよ。基金を作って貯めておいて必要な時にしっかり使えば良い。

色々といい意見がたくさん出てきました。トータルでは、人口の減少というのはある意味でやむを得ないこととして受け止めつつ、でもそこから派生する様々な課題を見越しながら先読みをしながらどうやって町の運営をしていくのかということが求められている。その時に山梨町長の言葉を借りれば、少し苦しく苦勞を伴うような話だったとしても逃げずに一生懸命対応する必要があるということで、決意表明があった。そして、我々も同じことを考えるだろうという気がします。

【2 町民の声（アンケート・WG）から見える町に望む姿】

臼井会長

最初の「1. 人口減少がもたらす町への影響」はこの位にさせていただき、「2. 町民の声（アンケート・WG）から見える町に望む姿」をご説明いただいて、それを受けたディスカッションができれば

ばと思います。ご説明をお願いします。

事務局（大屋主任）

続いて「町民の声（アンケート・WG）から見える町の姿」です。7ページをご覧ください。この資料自体は、前回の審議会において、総合計画は町役場だけで作るものではないというご意見や、町民の声や葉山らしさを取り入れるべきというご意見をいただきました。今、我々が手元にある町民の皆さんの思いや声をデータとして持っているのは、昨年度実施した町民アンケートと町民ワーキンググループだと思いましたので、改めて分析をさせていただいたのがこちらの資料になります。

8ページをご覧ください。「(1)町民の声（アンケート）」です。これは、町民アンケートの最終設問で、「将来の葉山町の目指すべき姿としてどのような言葉、キャッチフレーズが相応しいと思いますか」という設問の回答文をテキストマイニング、ワードクラウドとも言いますが、そういったAIを活用しまして分析をしたものです。頻出頻度が高い言葉や印象的な言葉が大きな文字となって表れていまして、青が名詞、赤が動詞、緑が形容詞、グレーが間動詞という色分けがされているものになります。こちらの結果を見ていただきますと、丸で囲んでいる部分がありますが、第四次総合計画の「美しい海と緑に 笑顔あふれる 心温かな ふるさと葉山」という将来像とほぼ同じようなキーワードが出てきていることが分かります。第四次で掲げた将来像と町民の皆様にご意見をいただいたキャッチフレーズにつきましても共通点があり、リンクしていることが分かりました。他にも、様々な町の将来に向けての町民の声というものがいろいろ読み取ることができると思っています。

次のページをご覧ください。こちらは町民の声（WG）です。町民WGでは、町の強みと弱みを付箋に書いて出すワーキングを実施させていただきました。そのワーキングで出た町の強みについての意見につきましても、同じようにAI分析を実施した結果がこちらになります。キャッチフレーズとは別の視点での意見が多く出ていまして、キャッチフレーズはやはり将来に向けてというのですが、こちらは町の今の強みということなので、現在の町についての意見が出ました。御用邸、マリンスポーツ、ハイキング、おしゃれといった「葉山ブランド」と言ってよいのかもしれませんが、そういったものを感じられる言葉や、海、自然、ごみといった「環境面での言葉」、もしくは、治安、見守る、コミュニケーションといった「暮らしに関する言葉」など、他にも様々な強みを町民の皆さんが感じている結果が出ているのではないかと考えております。

次の10ページをご覧ください。こちらはまたWGで出た、町の弱みの部分です。こちらは、交通を所管している政策課としてはかなりインパクトがある結果が出てしまったと思っておりますが、交通や道路、公共施設などについて弱みだという結果が出ています。地域では唯一、右上ぐらいに、長柄という字名が出ていますが、長柄は去年の町民アンケートの結果だと10年前に比べて暮らしやすくなったという回答が一番多かった字でもありますが、その一方でこのような結果も出ていますので、おそらくですが、長柄につきましてもバスなどの交通関連における弱みを感じられているのではないかと推測されると思っています。あとは、全体的にハード面について弱みを感じられているという結果が出ています。

次のページをご覧ください。こちらはWGではなくて、町民アンケートの単位施策の重要度×満足度のアンケート結果です。これは、以前のアンケート報告の際にも一度お話しさせていただいておりますが、若干分析の手法を変えまして、具体的には単位施策の満足度と重要度のそれぞれの平均

値を 50 と偏差値化してマトリックス図の作成を行いました。以前は、満足、重要なら 2、やや満足なら 1、不満ならマイナス 2 というスコアでつけていたのですが、今回は偏差値化してみたものがこちらのグラフです。縦軸が重要度で横軸が満足度となっています。上に行くとも重要度が高い、右に行くとも満足度が高いといったものです。結果を見ますと、ほとんどの単位施策に関しては、平均値の 50 付近に集束していることがわかりますが、重要度が高いと感じられている施策もいくつか見られています。特に重要度が高く、満足度が低いと感じている施策を黄色の部分で囲っていますが、それが、公共交通、町道整備、地域医療、学校環境などといったものです。これらの満足度が低い施策は先ほどの WG で町の弱みとリンクする部分があることがわかりました。

次のページをご覧ください。「町民の声から見える町に望む姿」ですが、これは今までの 4 つのアンケート、WG の分析をベースに町に望む姿を考えてみたものがこちらです。まず、左の「町民の想う町のイメージ」ですが、これは先ほどもお話ししたように、第四次の将来像とリンクしていると考えましたので、第五次にこの将来像を継続して使用するかは抜きにしておきまして、まずはこのフレーズは間違っていないと考えて置いてあります。

続いて、右の黄色の枠ですが、この未来へのイメージに込められた町民の声としまして、アンケートのキャッチフレーズへの回答結果をいくつか抽出しています。それが、人の温かさ、優しさ、育む心、美しい自然といったもの、暮らし続ける豊かな文化、充実した暮らしといったもの、そして穏やかな時間、都会から帰る場所といった郷土愛のようなものといったものがあると感じました。

そして、この将来に向けられた町民の声につながる町民の思う現在の町の強みとして抽出したものがこの青枠のものです。それが豊かな自然、子育て世帯の転入、人・地域のつながりといったものや、続いて、健康なまち、多様な人々、治安の良さ、災害の少なさといったもの、そして、100 年の歴史、マリンスポーツやハイキング、おしゃれな葉山ブランドといったものがあると感じました。

この町民の将来に向けての思いや町の強みを基に、事務局で考えさせていただきました町民の声から見る町に望む姿というのはこの 3 つではないか、というのが隣の緑の枠です。それが子育てしたいまち、生涯住み続けたいまち、自慢できるまちの 3 つです。

この 3 つの望む姿に対しまして今の町の事実として整理したものが右隣のグレーの枠です。「子育てしたいまち」としては、町の多くが自然に囲まれ、美しい海岸もある豊かな自然環境で子育てをしたいという理由の移住が多い。出生数は低下していますが、児童生徒数は維持もしくは微減にとどまっているという事実。その一方で、子育てしたいのに待機児童等は解消できていないという弱みがあります。そして、「地域のつながり」としましては、お祭り、最近もちょうど森戸神社の例大祭がありましたが、地域の賑わいがある。「生涯住み続けたいまち」としましては、健康なまちとして 1 人当たりの医療費が県内では低いです。また、犯罪発生率もかなり低くて治安が良い。葉山芸術祭などのイベントも盛んで多様な人々に暮らしていただいている。そして、災害や防犯につきましても満足度が高く、定住の意思もアンケートから見るとかなり高い。しかし、その一方で先ほどの弱みにもありましたが、公共施設や交通、医療等のインフラについては不満がある。「自慢できるまち」としましては、間もなく迎える町政 100 周年のこれまでの御用邸や日本ヨット発祥の地、保養地のような歴史、海水浴客や登山客などの来地をいただく観光地としての側面、その一方で、個人商店が多いものの、大型の商業施設はありません。また、観光に関しましては、町民アンケートの重要度、満足度は低い結果が出ているという事実もございませぬ。

次のページをご覧ください。こちら、本紙の最後のページになりますが、この3つの望む姿に対して、町の強みや事実などを踏まえて、このような意味の方向性を持たせられるのではないかと考えたものです。「子育てしたいまち」には、豊かな美しい自然の中で伸び伸びと子どもを育てられるまち、そして、葉山らしい教育や子どもの居場所を地域と関わり合いながら作っていけるまちを目指していきたい。「生涯住み続けたいまち」には、子どもから高齢者まで、何歳になっても社会・地域と関わり合うことができるまち。そして、これからの100年先も安心・安全に暮らし続けられるまちを目指していきたい。「自慢できるまち」には、御用邸などのこれまでの歴史と、現在の町に関わる人々が織りなす多様な文化、未来に向けての環境のまちへと住んでいることに誇りを持ち自慢できる、そして町外の人に「いつかは葉山へ」と思われるまちを目指していきたい、というものです。この3つの町に望む姿につきましては、庁内の策定委員会にまだ諮られておらず、あくまで事務局案といったものではありませんが、町民の声や思いを計画に反映していくという点で、今後、基本構想を検討いただく際に要素や方向性にすることができればと考えております。この3つの方向性については、行政の事業を、例えば総務的や財政的な部分に紐付けるのは難しいと思っはいるものの、それ以外の事業については、今後紐付けをすることができるのではないかと考えております。説明は以上になります。

臼井会長

ありがとうございます。町民の声から町に望む姿ということでご説明でした。最後の「(6) 町民の声から見える町に望む姿」のまとめはとても良いと思います。逆に言うと、これが出てくると表現の仕方の問題はあるけれども、ずっと説明が入る話なので、何らかの形で計画のどこかへ枠組みとして使えるということをこの後の作業で考えていただければと思います。ありがとうございました。ご意見があればお願いします。

早川委員

すごく一つ一つ、いちいち“ごもっとも”と思いました。私も葉山に住んで思っていると思いながら読んでいましたが、発信するという立場で見た時に、一つだけ気になったワードがあって、「自慢」という言葉を何か他の言葉に。私も自慢しているのですが、例えば今、ネットで調べたのですが、こういう文章にする時に「自慢」と書いて良いかどうかは少し考えた方が良いので、皆さんの中で詳しい方がいらっしゃったらと思っています。「誇る」「誇れる」など、ちょっとピンとくる言葉がなくて対案がないままに反対意見を言ってしまう申し訳ないのですが、少し引っかかったワードではありました。

高梨委員

同じところに引っかかりました。

近藤委員

同じです。

臼井会長

気持ちはわかりますよね。でも自慢と書きたかったのもわかります。

高梨委員

今の意見で、私も思いますが、「自慢」というと自己満足にもなってしまいますので少し危険という気がして、むしろ「誇れるまち」も微妙なところで、「望まれる」、「期待される」など、他の人達から見てもという、後ろの方に書いてあることも含めて「いい町」として、自他ともに認める感があった方が良く感じました。

事務局（大屋主任）

ここは、確かにすごく悩んだところです。「誇れるまち」もそうですし、私も葉山に住んでいて、友人を呼ぶこともあるので、「いいまちだよ」と呼びたいので、「招きたいまち」でも良いかと思っ
てはいるのですが、この辺は、皆さんから言い回し等のご意見をいただきたいと正直思っていたところなので、ご指摘ありがとうございます。

早川委員

でも、対案が浮かばないし、実際、自慢しています。

加藤委員

「誇れるまち」、「自慢するまち」ということですが、私は、ずっと葉山ですから「自慢」がわからないですが、私が昭和40年に高校に入学した時、隣の横須賀に行くと「お前、三浦郡かよ」と非常に馬鹿にされ、そう思っていたのですが、息子達が高校生になると中学から横浜に行ったのですが、「三浦郡葉山町、これがいいんだよ」と言っています。だから、私はどこで葉山が変化して皆さんが住みたくなかったのか、どの様なふうに変化していったのか、何故、そんなになってしまったのかなど。私は、そんなに誇れるまちとは思っていなかったし、確かに誇りたいのですが、あんまり変わっていないのに何故かというのは、行政が一生懸命やってくれたからなのかわからないのですが、何が違って変化してきたのだろうと。今、説明を受けて、総合計画なりいろいろな計画を進めてきたのが良かったのかと、自分の中で疑問というか不思議というか、そう思っていました。質問にもなってないですけど感想です。

臼井会長

すごく良いご発言だと思います。だから、これをしたから住み続けたいと思えたのか、これをしたから誇れるようになったのかは、パッと思いつかない。何かをしたことではなくて、面々と葉山が世代間で継承してきたことが、多分大事なこととして残っているのではないのでしょうか。それは、まだ言葉にできてないけど、葉山が大事にしてきたことに、横須賀や横浜が価値観で追いついてきた。だから、逆に言うと、町が魅力的な誇れるかどうか、この言葉が適当かどうかは別にして、そういう風な町であるということは、多くの場合、何かをすることでそういう町にしようと私達は思っていますが、もしかすると本当に町にとって大事なものをきちんと世代を越えて引き継いでい

くことも大事な要素だという。前にも申し上げましたが、例えば、お金かけてみなとみらいの様なものを作るのも、町の魅力を作る方法ではあるけれども、あれは金を投資し続けないとあの魅力を維持できません。でも、葉山は、何をしたかははっきり分からないけれども、世代を越えて何かを引き継いできて、それがちゃんと魅力として認知されるように、全部がそうかどうかは分かりませんが、ある部分確実に認知されるようになったと考えれば、今のことがきちんと言葉にできて、きちんとではなく漠然とでも計画の中に置けたら、それはすごいことではないでしょうか。だって、お金かけて何かするより、もっと大事なものがあって、葉山はそれを大事にしてきたという話です。普通の人は発想しません。

早川委員

都内から来た人がおっしゃるのは、このスケール感が安心できるという言い方をされます。大都会から来たりとかすると、人間が生物的に防御しなくても、無意識にいろいろなアンテナを張らなくても自然にいられる町のスケール感を感じて言ってくださった方がいました。ずっと住んでいると気がつかないですね。

加藤委員

私が思うのに、葉山の誇れるところは、東京にも約2時間で行ける割には、これだけ自然があり、私の息子達は育って都会にいますが、葉山に帰ってくると安心感もあるのが魅力で葉山が良いのだと思います。自分なりに解釈すると、そのように感じました。それで治安もいいし、私自身、バリアを張らなくてもいられる町と感じてはいます。だから都会に近くて、その割には自然あって、バリア張らなくても住める。それくらいなのに、50何年そんなに変わっていないのに何が魅力なのだろうと感じるところです。

高梨委員

ありがとうございます。今、お話しがあったように、この50年の中で変えなかった良さがあるのだろうと、先ほど横浜みなとみらいなどが激動の状況にあっても変わらずにあった部分がすごく1つの魅力として大きいというのがあると思いますし、今回まとめてくださっているテキストマイニングの中でもブランド力という言葉が出てきている。「葉山」というものについてのブランディングが、老若を問わずイメージとしてあるというのが1つあると思っています。その中だとこのキーワードだと「自然」と「御用邸」を含めてある程度、認知度として、御用邸が置けるほど良い環境だという間接的な感覚もおそらくあると感じます。当然、先ほど山梨町長がおっしゃっていたように、それが治安の維持ということと自然環境ということの2つのキーワードがあって、それは今後も変えない1つの大事な路線としてあるというのは、はっきりと明示していく方が良いと。今回の第五次では、大きく変化を見ていく必要があるという話はありませんでしたが、そこは大事だと思いました。

また、とても細かいことで恐縮なのですが、テキストマイニングをする時に、恐らくそのままの言葉を分析されていると思いますが、ひらがなと漢字で同じ意味、例えば、ひらがなの「よい」と漢字「良い」について、同じ人が書き分けている場合には違う意味にとった方がよいと思いますが、そうではない場合、同じ意味で使っているのではないかと思います。それと8ページの左側に「しや

すい」と出ているのは、「何々しやすい」だと思うので、本当は文節を切らずにマイニングにかけなければいけないということ、次のページに「見える」が、ひらがなと漢字のかたちになっているのですが、この資料をもし公に、「このように皆さんの声があります」というように出す時には、一度元データをきれいに整頓して、個別の言葉のところをきれいにした方が良いと思いました。あと、総数として何件のアンケートを分析した結果と出てくると、すごく説得力が出るので、そして、「その声を私達は大事にしています」と持っていけると良いと思いましたので、また整頓していただけると嬉しいと思いました。特に、3ページ目の大きい字、ひらがなで「とおりづらい」というのと、中位の字、漢字で「通りづらい」があり、実はこの2つを足したら結構な大きさになるかもしれません。その様なあたりが、特にこれは、文字数との関係性が大きく出るようになっているものなので、少し整理をした上でご検討いただけたらと思います。

事務局（大屋主任）

ありがとうございます。こちらもまだまだAIに不慣れなものなので、おっしゃるとおりだと思います。ちなみに、最初の町民の声のアンケートの方は、ざっくり430件位がベースです。町の強み・弱みがそれぞれ210件位、その程度の母数で分析をしました。その辺はきちんと明記するようにしたいと思います。

臼井会長

いつどのような目的で行ったアンケートで元データは何件と、そこまでであると良いと思います。

事務局（大屋主任）

はい、ありがとうございます。

高梨委員

先ほどの自慢の話に関連して、「御用邸」など、この辺りのキーワードを入れるのか、入れないのかとか、今後もずっとあるという想定で見えていくのかということや、今のブランド力を大事にしていくというふうな観点でここを捉えていくのが「自慢」というのか「誇れる」というか、「私達の推しです」とするのかという辺りが一つキーワードとしてどうなのかが気になりました。ここで、「多様な文化」、「未来に向けて」と書いてくださっていますが、「多様な文化」がこの中のどれを指しているのか、後ろのキーワードと1個前の12ページのところの言葉のどれがそれを指しているのかというあたりがもう少し整理をしていく必要があると思いました。後ろの文言自体は、なるほどと読んだのですが、それと1個前の資料とかが少しどこなのかというのが気になりました。

早川委員

何かいい言葉がないかと思って探しています。

臼井会長

いや、また決めなくていいと思います。今日の話だけでも「誇れるまち」「自他ともに認めるまち」

「誇りに思えるまち」。あと私が追加で書いたのは「誇りを持ち続けられるまち」、いくつかあり得ると思います。そして、言葉を足すのならば、「誇れるまち」あるいは「自慢できるまち」の違和感がどんどん薄くなっていくので、多分「誇りを持ち続けられるまち」だったら、自慢できるまちの違和感はいよいよ薄くなると思います。長くすれば良いというものでもないのです、皆で「この辺が良さそうだ」という話はどこかでまた確認すれば良いと思います。ただ、今日の話だけでもいくつか案が出ていますので、どうも間違いなく言葉を言い変えて、初めて見た人が驚かないようなところで落としてあげようと思います。

早川委員

では、私も忘れないうちに一つ言っても良いですか。私は先ほど町長が「先の見えない時代」というのが県の方でも出ていたと言われたので、その様な時代でも葉山に来るとやる気や希望が見えるので、「希望のあるまち」とかそんな感じの言葉を1個挙げておきます。

高梨委員

ごめんなさい。私自身の話が少し違うかもしれないのですが、「生涯住み続けたいまち」と「誇りを持ち続けられるまち」という2つは、すごく持続性のある一生涯をかけてのところだと思います。一方で、「子育てしたい」というのは、非常に限定的に捉えてしまう用語のような気がして、「生涯住み続けたい」の中に子育てがあるのではないかというのが私の感覚としてありました。そうすると、「未来を創り続けていくまち」みたいな、その未来の中に子どもがあってみたいな、「何々し続ける」というキーワードが3つとも入っていて、例えば1つ目が「未来を創り続けるまち」ということで、子育ても安心してできます、新しい職業をされる方々も、例えば、いわゆるネット上で働く方も安心して住めますし、製造業の方々も、ということであり、グローバルにも特に交通不便だと言いますが、羽田へのアクセスは割と良いと思っています。ですので、社会には発信していきやすいということ。先ほど加藤さんもおっしゃっていただきましたが、東京首都圏に出ていくのも行きやすいということもあるので、そのような意味では、未来型志向を打ち出すにはとても良い町なのではないかと思っています。「未来を創り続けるまちの中に子育てがあります」と置いた方が他のものとの流れの中では、「何々し続ける」とすると、かっこいいと思います。そして、VUCAの時代であっても、私達は継続性を持ってちゃんと町民のことを考えていますということを打ち出すなど、一案として申し上げます。

臼井会長

ありがとうございます。こういうのは、意見を出した上で少し置いてもう一回眺めると何となくこれが良いと落ち着くのですね。ありがとうございます。「未来を創り続けるまち」は、「子育てに良いまち」の代わりではなく、もっと上の上位概念で置いても十分使えそうなワードですね。

最後のところで「通りづらい」が二つあるのは、これは、公共交通機関の不便さが葉山では必ず出るのですが、逆に言うと、ある部分の葉山の魅力を作っているのかもしれないかもしれません。普段言わないのですが、私が生まれたのは鎌倉二階堂で、おじいさんのお墓は浄明寺にあります。お寺まで朝比奈から八幡様まで行く通りは、バスが通っていますが、一步入って浄明寺の突き当たりの手前あたり

から脇道は車が殆どすれ違えないような道です。鎌倉は、ある意味で非常に暮らしにくいところで、少し奥に入ると交通の便は悪く舗装もしてなかったりしますが、あれはたぶん鎌倉の良さみたいな話なのでしょう。だから、葉山もここでは逆の意味で、皆さんが反応してくださっていますが、通りづらいのも、例えば「通りづらいから車が入ってこない」「車が入ってこないから子ども達が遊んでいても大丈夫」みたいな、しかも舗装してないところがあれば、その周辺にある木には必ず夏になれば蟬がいるということなのだと思います。価値観を改めなければいけないと言うのが、加藤委員の発言でよくわかりました。ありがとうございました。

ということで、とても良い議論ができたので、今日の議事録を残していただいた上で、少し皆さんで覚えていて、たぶん次からもう少し具体的な作業に入ると思っていますので、その時に今日ディスカッションしたことを生かせればと思いますので、よろしくお願いします。町の方からプラスで何かこれをとという話がありますでしょうか。その他で何かあればお願いします。

(2) その他

事務局（大屋主任）

今日の議題ではないのですが、前回の議事録案を本日お示しさせていただいています。また、来週中位にはホームページにアップできればと思っていますので、よろしければお確かめいただき何かありましたらご連絡いただければと思います。

あと、次回の審議会のスケジュールを決めさせていただければと思っています。当初、お渡ししたものだとして10月に第3回を示させていただいておりますが、もしよければですが、10月23日の週あたりでどこか皆様のご都合があればというところで考えています。10月23日の月曜の午後だけ予定が入ってしまっているので、それ以外の午前、午後のどこかでご都合がいい日があればと思っています。

一度、今週中にこちらからメールをお送りしご返事いただくようなかたちで決めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

4 閉会

白井会長

はい。それでは10月の中旬で第3回の日程調整を事務局の方からさせていただくということで、メールで予定をお返ししたいと思います。特になければ、今日の意見交換は以上とさせていただきます。お手元の議題が終わりましたので、以上で終わりたいと思います。今日はありがとうございました。